

林業の活力を高める

研究開発ロードマップ

2010 年

2020 年

2030 年

2050 年

木材供給量：2300 万 m^3
(森林・林業基本計画)2015年目標

木材供給量：2900 万 m^3
(森林・林業基本計画)2025年目標

伐出生産性：10 m^3 /人・日
(技術開発目標)

伐出生産性：20 m^3 /人・日
(技術開発目標)

新世代型森林施業技術

自然環境に適応した多様な
森林への誘導技術の確立

遷移シミュレーターによる
立地別更新予測技術の開発

循環遷移促進技術の確立
(育林コスト→0を目指す)

多様で健全な
森林の整備が
進む

先端技術を導入した
新たな育林技術体系の確立

機械化に対応した
育苗・育林技術の開発

自動植林機械
優良種苗短期生産システム

遺伝子組換え樹木を
導入した育林体系の確立
(収穫量→2倍を目指す)

高効率森林作業システム

低コスト・高効率・安全な
林業機械及び作業システムの開発

• 機械性能・作業能率の向上

機械・路網が一体となった
森林作業システムの確立

生産性・収益性向上による
持続的生産体制の確立

意欲ある
事業体が育ち
力強い林業が
再生する

低コスト路網整備技術

• 災害に強い道路施工技術

先端技術を導入した
林業機械の開発・実用化

テレコントロール技術
パワーアシスト技術

無人作業システムの確立

地域森林資源の管理・利用システム

森林・林業・木材部門を統合した
長期見通し手法の開発

• 林業の再生条件及び長期シナリオの提示

需要の変化に対応した
安定供給体制の構築

施業の集約化手法
需給調整システム

地域森林資源の管理・利用
システムの開発

森林情報の整備活用方策
担い手育成方策

国内自給率が
高まり循環型
社会の形成に
貢献する